

平成23年度 第2回
臨床検査専門医・管理医審議会だより

日時：平成23年8月19日(金)13:00~14:30

場所：日本臨床検査医学会 事務所

出席者：宮澤幸久委員長，高橋伯夫委員長，
村上正巳，土屋達行，佐守友博，
村田 満，高木 康，
東條尚子 各委員(8名)

欠席者：小柴賢洋 委員(1名)

委員長挨拶(宮澤幸久 委員長)

宮澤幸久委員長より開会の宣言があり議事は進行された。

【報告事項】

1. 臨床検査管理医認定試験受験資格審査について

(土屋達行 受験・更新資格審査委員長)

平成23年度の臨床検査管理医認定試験の受験希望者22名について，受験資格審査を行い，全員有資格と判定されたことが報告された。

2. 臨床検査管理医講習・認定試験開催について

(高橋伯夫 副委員長)

平成23年9月11日(日)11:00~16:00に第3回臨床検査管理医講習・認定試験が東京(慶應大学医学部)で予定されており，そのプログラムが報告された。

3. 日本専門医制評価・認定機構「研修施設訪問調査及び専門医制度の枠組みに関する協議について」(村田 満 日本専門医制評価・認定機構 協議委員)

日本専門医制評価・認定機構では，平成22年度より基本領域の専門医研修施設についての調査が開始され，2年目の本年度も引き続き調査を行う予定であるが，それに当たり，基本領域の学会より研修施設訪問調査チームのチーフサーベヤー，サーベヤー(調査員)の推薦依頼があり，チーフサーベヤーについては前研修施設・指導者認定委員長の松野一彦先生(北大)にお願ひし，サーベヤーについては各支部から合計10名を推薦いただく予定であることが報告された。

【審議事項】

1. 第28回臨床検査専門医認定試験結果について

(村田満 試験実行委員長，佐守友博 試験委員長)

平成23年8月6日(土)~8月7日(日)に慶應大学医学部で実施された。初回受験者20名(内1名欠席)，再試験受験者7名，合計26名が受験し，初回受験者19名中12名が合格，7名が再試験資格を得，3科目以上の不合格者はいなかった。再試験受験者7名中6名が合格，1名が再々試験の資格保持者となったことが報告され承認された。

なお，筆記試験当日から欠席した1名の初回受験者については，試験委員長が確認したところ体調不良(風邪)のためという理由であったが，筆記試験・実技試験の両日共に連絡のない欠席であったため，次年度以降，受験希望の場合は，初回受験者として申し込みを受けつけるのが妥当とした。

2. 臨床検査専門医規定の一部改定について

(土屋達行 受験・更新資格審査委員長)

平成23年度第1回審議会で検討された次の改定内容について，規定を整理して再確認し承認された。

1) 臨床検査専門医の受験資格の会員歴については，日本専門医制評価・認定機構の専門医整備指針に則り，臨床検査専門医規定2条，2)の「出願時満5年以上」を「出願時会員」であることとし，会員歴ではなく5年間の研修歴について重視することとなる。なお，5年間の研修には2年間の初期臨床研修を含めることも可とするとした。

2) 専門医更新において65歳以上の専門医も更新の単位を取得して更新していただくこととなったため，認定更新制度規定6条の「なお…65歳に達した場合は…別に定める申請方法により資格更新ができる。」を削除することとした。これは，厚生労働省の担当者から，更新条件を年齢に関らず同条件でなければ外形基準を満たさず，専門医を呼称することはできないこととなると指摘があったためである。

3) 専門医更新の単位で，リスクマネジメントについての更新単位と追加して，必須単位を枠外に記載して判り易くした。

4) 2科目以下の不合格の場合の再試験受験の受験できる年数，回数が曖昧だったため「初回受験年度

を含め5年度以内に限り…」と判り易く改定した。

3. 臨床検査専門医更新申請1名について

(宮澤幸久 委員長)

昨年は更新辞退していた65歳以上の1名からの更新申請が提出されたことについて、検討され、平成23年1月1日に遡って更新を認めることとなった。

4. その他

今後の臨床検査専門医・管理医審議会日程について下記の通りで確認された。

第3回：平成23年12月17日(土)10:30～11:30

平成23年度 第3回理事総会だより

日時：平成23年8月19日(金)15:00～18:00

場所：日本臨床検査医学会 事務所

出席者：宮澤幸久理事長，高橋伯夫副理事長，

矢富 裕総務理事，村田満会計理事

米山彰子庶務理事，

諏訪部章，登 勉，村上正巳，前川真人，

ヅ谷直人，藤田清貴，横田浩充，渡邊直樹，

賀来満夫，尾崎由基男，北島勲，岡部英俊，

山根誠久 各理事，

中原一彦，一山智 各監事（以上20名）

欠席者：宮地勇人，日野田裕治，各理事，

小出典男 2011 学術集会長(3名)

会に先立ち、宮澤幸久理事長から挨拶があり、藤田清貴 理事、尾崎由基男 理事を議事録署名人に定めて理事総会の議事を進めた。

【報告事項】

1. 支部報告

各支部報告の支部例会・総会予定、支部地方会予定などについて報告された。

北海道支部報告

1. 支部総会の予定

第45回支部総会

日時：平成23年11月5日12:30～18:00

場所：旭川医科大学臨床第3講義室

総会長：伊藤喜久(旭川医科大学臨床検査医学講座)

事務局：旭川医科大学臨床検査医学講座

TEL：0166-68-2745

FAX：0166-68-2744

E-mail：lab-med@asahikawa-med.ac.jp

東北支部報告

1. 支部総会の予定

第43回支部総会

(第22回臨床化学会東北支部総会合同開催)

期 日：平成23年9月10日(土)

場 所：秋田大学医学部附属病院多目的ホール

総会長：荻原順一

事務局：秋田大学大学院医学系研究科

感染・免疫アレルギー・病態検査学講座

〒010-8543 秋田市本道1-1-1

TEL：018-884-6297

FAX：018-836-2624

E-mail：rs-info@hos.akita-u.ac.jp

関東・甲信越支部報告

1. 支部総会の予定

第23回支部総会

期 日：平成23年12月3日(土)

場 所：未定

総会長：三井田孝教授

(順天堂大学医学部臨床検査医学)

東海・北陸支部報告

1. 支部総会の予定

第51回支部総会

(第22回臨床化学会東海・北陸支部総会連合大会)

期 日：平成24年3月11日(日)

場 所：国際医療福祉大学小田原保健医療学部

総会長：ヅ谷直人(国際医療福祉大学熱海病院)

内 容：テーマ「医療に活かす簡易型迅速検査」

事務局：ヅ谷直人(国際医療福祉大学

熱海病院検査部)

TEL：0557-81-9171(代表)

FAX：0557-83-6632

E-mail shime@iuhw.ac.jp

2. 支部例会の予定

第31回支部例会

(第23回臨床化学会東海・北陸支部総会<総会長北島勲>との連合大会)

日 時:平成24年8月4日(土)9:00~16:00

場 所:富山国際会議場

例会長:北島勲

(富山大学臨床分子病態検査学講座教授)

事務局:富山大学附属病院検査部内 宇治義則

TEL:076-434-7737

FAX:076-434-7736

Email:uji@med.u-toyama.ac.jp

近畿支部報告

1. 支部総会の予定

第54回支部総会

期 日:平成23年10月29日(土)

場 所:ピアザ淡海 6階 ホテルピアザびわ湖
クリスタルルーム

総会長:日高 洋(大阪大学教授)

参加費:5,000円

事務局:大阪大学医学部附属病院臨床検査部

林貞夫

TEL:06-6879-6636

E-mail:jslm-k54@hp-lab.med.osaka-u.ac.jp

九州支部報告

1. 支部総会の予定

第57回九州地方会

(第23回臨床化学会九州支部総会と合同開催)

期 日:平成24年2月11日(土)

場 所:福岡大学メディカルホール

(福岡市城南区七隈7-45-1)

総会長:松永 彰

(福岡大学医学部臨床検査医学講座)

事務局:福岡大学医学部臨床検査医学講座

〒814-0180 福岡市城南区七隈7-45-1

TEL:092-801-1011 ex. 3540

Fax:092-873-1050

E-mail:matsunag@cis.fukuoka-u.ac.jp

2. 各種委員会報告

A. 編集委員会(矢富 裕 委員長)

平成22年度の臨床病理誌に掲載された論文について、平成23年度学術賞優秀論文賞候補論文の選定を行い、候補3論文(候補者)を学会賞委員会に結果報告をしたことが報告された。

B. 臨床検査点数委員会

(米山彰子 担当理事, 委員長)

1. 診療報酬提案書についての厚生労働省ヒアリング 8月下旬予定

2. 医療ニーズの高い医療機器等に関する要望調査(継続受付中)

対象は、欧米にて承認されている、又は国内で開発中の臨床検査で、下記を満たすもの。

対象疾患:生命に重大な影響がある疾患(致死的な疾患)、もしくは、病気の進行が不可逆的で、日常生活に著しい影響を及ぼす疾患

医療上の有用性:既存の診断法がない、もしくは、医療上の有用性が既存の診断法よりすぐれている

3. 内保連検査関連委員会 生体検査WG

生体検査についてコスト調査、有用性評価に基づく提言を取り纏め中

C. 精度管理委員会(宮地勇人 委員長 欠席のため
▽谷直人 担当理事)

1. 2011年度CAPサーベイについて報告

1)2011年度 APサーベイ申し込み集計

2011年度サーベイ試料は5月11日から初回発送を開始し、8月5日の時点で、生化学/TDM、免疫、心筋マーカー、腫瘍マーカー、総合血液、血液凝固検査の発送を完了し、今年度前半部分を無事に終了した。

2)参加施設数の確保

参加施設数(2011年度93施設、対前年-4施設減)の増加を目指して、ISO15189取得施設への啓発活動を実施している。過去に参加していた施設を含め、10施設がトライアルとして、まずは秋(10月~11月の回)に参加し、2012年度の本格参加を検討。

D. 検査項目コード委員会(村田 満 委員長)

平成23年度第1回検査項目コード委員会

日 時:平成23年6月16日(木)17:00~18:50

場 所：日本臨床検査医学会事務所
 出席者：村田満（委員長），海渡健，三宅一徳，
 石黒厚至，井上勉，塩田晃三，山田悦司，
 板橋光春，岩崎真司（各委員）

議題

1. JLAC10 コード新規登録申請について

(1) 今回の申請の前に，既に当委員会内メール回議にて承認された分析物コード 2 件の新設報告がなされた。

【新設分析物名称：新規分析物コード：承認日】

| | | |
|---------------|-------|-----------|
| トリコスポロン・アサヒ抗体 | 5E154 | 2011/3/26 |
| 肺炎球菌細胞壁抗原 | 5E057 | 2011/5/16 |

(2) 今回のコード新規登録申請は平成 23 年 5 月度新規保点取載項目の測定法 1 件，検査センターから分析物 8 件，結果識別 6 件などが提起され協議されたが，委員会終了後，測定方法の追加提起があったため，委員会内メール回議で検討した。その結果，最終的に分析物 7 件，識別 1 件，結果識別 6 件，材料 5 件，測定法 4 件と測定法名称変更 1 件が決済された。

【新設分析物名：新設分析物コード】

| | |
|------------------------------|-------|
| L 型脂肪酸結合蛋白(L-FABP) | 5C100 |
| メソテリン(可溶性メソテリン関連ペプチド ; SMRP) | 5D600 |
| 総 GLP-1 | 4G036 |
| 活性型 GLP-1 | 4G037 |
| MECP2 遺伝子 | 8C805 |
| Xp22.3 欠失(STS) | 8B531 |
| 1p36 欠失(CDC2L1) | 8B315 |

【新設識別名称：新設識別コード】

| | |
|----------|------|
| DNA 多型解析 | 9956 |
|----------|------|

【新設結果識別名称：新設結果識別コード】

(全脂質構成脂肪酸分画(分析物コード：3F095)の多結果項目追加)

| | |
|----------|----|
| EPA/AA 比 | 73 |
|----------|----|

(パピローマウイルス-高リスク型(分析物コード：5F101)の多結果項目新設)

| | |
|-------|----|
| 検出型 1 | 51 |
| 検出型 2 | 52 |
| 検出型 3 | 53 |

| | |
|-------|----|
| 検出型 4 | 54 |
| 検出型 5 | 55 |

【新設材料名称：新設材料コード】

| | |
|--------|-----|
| 造血幹細胞 | 035 |
| 乳頭分泌液 | 057 |
| 子宮頸管粘液 | 058 |
| 固定細胞 | 076 |
| 細胞浮遊液 | 084 |

【新設測定法名称：新設測定法コード】

| | |
|---|-----|
| SISH 法 (備考：SISH に基づく dual color in situ ハイブリゲーション法(DISH 法)を含む) | 845 |
| CISH 法 | 846 |
| 可視吸光光度法(JSCC 標準化対応法以外) | 277 |
| 紫外吸光光度法(JSCC 標準化対応法以外) | 278 |

【測定法名称変更コード 変更後名称 変更前名称】

841 FISH 法 — in situ ハイブリゲーション法
(備考：FISH 法を含む)

2. 検査測定法・項目名称の標準化について

当議題については当委員会の前に開催された JCCLS 用語委員会/検査項目コード委員会 合同会議にて検討されたので，当委員会での検討はなかった。

3. JSCC 標準化対応法と JLAC10 の紐付けについて

外部医療機関から当委員会に対し，JSCC 標準化対応法の JLAC10 コード設定の要望があり，事務局から測定法に新設する案が提起された。しかし，現状「標準化」に対応していない施設は極めて少ないのではないかと，既に「標準化」を既存コードで登録している施設での扱いはどうするのか，などの意見が出され，検討した結果，従来どおりの運用(標準化法コード新設はしない)で回答することとしたが，委員会終了後，「標準化法以外」の測定法コード新設案の追加提起がなされ，委員会内メール回議の結果，追加案(下記)にて決済された。

(前述 2, (2)の，測定法新設内参照)

- ・可視吸光光度法(JSCC 標準化対応法以外) 277
- ・紫外吸光光度法(JSCC 標準化対応法以外) 278

日本臨床検査医学会ニュース

4. 検査項目コード委員会への質問対応報告

2010年11月から2011年5月までに医療施設などから日本臨床検査医学会検査項目コード委員会へ寄せられたJLAC10関連の質問6件とその回答が報告された。

E. 遺伝子委員会

(宮地勇人 委員長 欠席のため横田浩充 担当理事)

1. 遺伝子関連検査の平成24年度診療報酬改定提案書に向けての作業

1) 臨床検査振興協議会

- ・日本臨床検査医学会, 日本人類遺伝学会, 日本遺伝子診療学会及び日衛協の4団体で, 遺伝子関連検査に関する有用性・コスト調査を実施した。
- ・調査結果に基づき, 日本臨床検査振興協議会にて厚労省と勉強会を開催(6月9日)。
- ・振興協議会からの提案書の取り纏め作業中。
- ・遺伝子関連検査について, 前回の改定で増点されず不満回答が多かった検査項目に関して現行の2000点から4000点への増点を要望することとなった。

2) 学会要望

- ・学会要望として, 内保連を通して提出した。

(遺伝子関連検査は専門医会から提出, 6月30日に保険委員会開催にて確認)

- ①染色体検査(既記載項目)
- ②悪性腫瘍遺伝子検査(既記載項目)
- ③血液細胞核酸増幅同検査(既記載項目)
- ④免疫関連遺伝子再構成(既記載項目)
- ⑤UDP グルクロン酸転移酵素遺伝子多型(既記載項目)
- ⑥WT1mRNA 核酸増幅検査(既記載項目)
- ⑦CK19mRNA(既記載項目)

F. 東日本大震災対策委員会(メ谷直人 担当理事)

1. 東日本大震災対策委員会を二回開催

平成23年6月2日 日本臨床検査医学会事務局

内容: 当委員会を通じて支援を行っている現状の報告と, 今後の方向性について。被災地からの報告によると, 支援物資は有効に用いられ, 一部の施設は仮設診療所設立の動きがある等, 状況が変わりつつあるとのこと。そこで, 現況の把握と貸与機器の使用期限を明確にすべく, 調査票を作成することに決定。

平成23年7月2日 名古屋市八神製作所7階会議室

内容: 前回の委員会で決定した調査票の内容について最終確認。調査票の結果を元に今後の方針を決めるべく9月22日, 10月7日, 11月19日に開催予定

2. 臨床検査技師派遣の終了

派遣期間: 4月27日より開始された人的支援が, 予定通り6月26日に終了

派遣先岩手県陸前高田市にある米崎コミュニティセンター内の県立高田病院仮設診療所, 陸前高田第一中学校避難所内救護所。

派遣者数: 2名を1組として計8組が土曜に現地入りし翌週の日曜まで滞在。1名が2回派遣されたので, 総勢15名による臨床検査技師を兵庫県臨床検査技師会より派遣。

派遣実績: 当委員会の予算から, ボランティア保険代金, 現地までの交通費, 宿泊所までの移動手段としてレンタカー, 食事代として7千円/日を支給。

3. 被災地の視察

訪問者: メ谷直人 担当理事, 大花昇 委員, 山崎家春 委員, 奥田優子 委員, 小林隆委員

日程: 平成23年7月21日

視察先: 福島医科大学, 南相馬市立病院, おのだ内科, 原町中央産婦人科医院現地の様子: 福島県では地震, 津波による物理的な被害があまり目立たないものの, 福放射能汚染物質の広域なものである。4ヶ月以上必死に頑張り続けておられる医療職員への精神的な支援も必要と感じられた。

4. 調査票の発送

当委員会を通じて支援させて頂いた, 18施設へ調査票を送付する。電子メールアドレスを把握している施設には, 電子メールにても送付を行う。

機器類や体外診断薬の提供に協力を頂いた, 日本臨床検査薬協会にも, 当委員会の小林委員長より調査開始の連絡を行う。

3. 第58回日本臨床検査医学会学術集会報告

(小出典男 会長 欠席のため 高橋伯夫 副理事長)

平成23年11月17日(木)~20日(日)に岡山コンベンションセンターで開催予定の第58回学術集会の主な講演・シンポジウム内容, 一般演題400題の申込があったこと, プログラムが示され準備が順調

になされていること、また、ランチョンセミナーが予定数に達したことが報告された。

4. 第59回日本臨床検査医学会学術集会報告

(一山 智 会長)

平成24年11月29日(木)～12月2日(日)に国立京都国際会館で、「臨床検査の再生(仮)」というテーマで開催予定であること、学術企画などについて報告された。

また、同時に開催する第12回 ASCPaLM 会議について、高橋伯夫当会議会長から報告された。

5. 第60回日本臨床検査医学会学術集会報告

(荏原順一 会長 欠席のため 高橋伯夫 副理事長)

平成25年秋頃に開催予定であるが、会期、会場については検討中であることが報告された。

6. 平成24・25・26・27年度理事長選挙結果、経過報告(宮地勇人 選挙管理委員長 欠席のため、

メ谷直人 当委員)

平成24・25・26・27年度理事長選挙は、6月13日公示、発送、6月25日投票締切、6月29日開票の結果、村田満候補が過半数の得票で次期理事長として選出されたこと、そして、理事、監事の立候補で、それぞれ8名、2名の立候補者(他薦)があり、8月22日公示、発送、9月13日投票締切、9月14日開票であることが報告された。

7. 平成23年度臨床検査専門医認定試験結果について(村田 満 試験実行委員長)

平成23年8月6日(土)～8月7日(日)に慶應大学医学部で実施され、初回受験者20名(内1名欠席)、再試験受験者7名、合計26名が受験し、初回受験者19名中12名が合格、7名が再試験資格を得、3科目以上の不合格者はいなかった。再試験受験者7名中6名が合格、1名が再々試験の資格保持者となったことが報告された。

8. JCCLS用語委員会/臨床検査医学会項目コード委員会 合同委員会での検体検査の標準検査名称(案)の検討について(村田満 検査項目コード委員長)

JCCLS用語委員会と当会検査項目コード委員会の

合同委員会で、検体検査の標準検査名称の確立を目指し検討を進めており、JLAC10を基本に、保険適用項目を対象範囲とし、診療報酬情報との整合性をとりつつ、標準検査名称の設定規則に基づき、当会の各分野の専門の先生にご意見をいただき標準検査名称の案を策定し、最終的には厚生労働省に提出し保険適用項目の標準検査名称としたいと考えていることが報告された。

9. その他

特になし。

【審議事項】

1. 第57回学術集会収支報告について

(宮澤幸久 第57回学術集会長)

昨年9月9日～12日に開催された第57回学術集会の収支報告がなされたが、項目の詳細単位金額に合わない箇所があったため、会計事務所に確認し、次回の理事会に再度提出することとなった。

2. 利益相反委員会委員長について

(村上正巳 理事)

昨年、組織することが決定していた利益相反委員会の委員長として、佐藤尚武先生(順天堂東京江東高齢者医療センター臨床検査科)が提案され承認された。

3. 平成23年度学会賞受賞候補者について

(尾崎由基男 学会賞委員会委員長)

平成23年度の学会賞について、学会賞委員により事前審査を行ったうえ、7月14日に当委員会を開催し、学術賞1名、生命科学賞1名、優秀賞1名、検査・技術賞1名、Bergmeyer-Kawai賞2名、奨励賞1名、編集委員会で選定された優秀論文賞3名が学会賞受賞候補として選定された報告があり、審議のうえ承認された。

4. 学会賞に関する規定の一部改定について

(尾崎由基男 学会賞委員会委員長)

学会賞の検査・技術賞の受賞対象者として、臨床検査技師および衛生検査技師と限定すること、奨励賞の条件の学術集会での筆頭発表者を外し、「臨床病理」誌の原著論文の筆頭著者として優れた業績を

示した会員のみとしたこと、Bergmeyer-Kawai 賞の副賞について金額を記載するようにしたことが報告され、審議のうえ承認された。

5. 学生用基準範囲の一部修正について

(前川真人 理事)

尿酸の基準範囲に性差を設けること、備考欄に治療のカットオフ値は男女ともに 7.0 mg/dl であることを記載することが提案され、審議のうえ承認された。なお、学生用基準範囲については、当会ホームページのトップページから、学会指針等という項目を設けて、そこからすぐに見ることができるようにしたことも報告された。

6. 臨床検査専門医制度規定の一部改定について

(村田満 理事)

平成 23 年度第 1 回審議会で検討され、第 2 回審議会で決定された下記の 4 つの改定内容について提案され、承認された。

1) 臨床検査専門医の受験資格の会員歴については、日本専門医制評価・認定機構の専門医整備指針に則り、臨床検査専門医規定 2 条、2) の「出願時満 5 年以上」を「出願時会員」であることとし、会員歴ではなく 5 年間の研修歴について重視することとなる。なお、5 年間の研修には 2 年間の初期臨床研修を含めることも可とするとした。

2) 専門医更新において 65 歳以上の専門医も更新の単位を取得して更新していただくこととなったため、認定更新制度規定 6 条の「なお…65 歳に達した場合は…別に定める申請方法により資格更新ができる。」を削除することとした。

これは、厚生労働省の担当者から、更新条件を年齢に関らず同条件でなければ外形基準を満たさず、専門医を呼称することはできないこととなると指摘があったためである。

3) 専門医更新の単位で、リスクマネジメントについての更新単位を追加して、必須単位を枠外に記載して判り易くした。

4) 2 科目以下の不合格の場合の再試験受験の受験できる年数、回数が曖昧だったため「初回受験年度を含め 5 年度以内に限り…」と判り易く改定した。

7. 臨床検査管理医講習、認定試験プログラムについて(高橋伯夫 副理事長)

平成 23 年 9 月 11 日(日)11 : 00~16 : 00 に第 3 回臨床検査管理医講習・認定試験が東京(慶應大学医学部)で予定されており、そのプログラムが報告され、承認された。

8. 第 58 回学術集会での 60 周年記念式典について(高橋伯夫 副理事長)

本年 11 月 18 日 13 時 20 分~14 時 20 分で、60 周年記念式典を行うことについて、内容としては、元会長の櫻林郁之介先生と前理事長の渡辺清明先生に短時間ではあるが任期中の出来事を振り返ってお話をしていただき、記念講演として岡山出身で臨床検査振興協議会の臨床検査のイメージキャラクターである八名信夫氏(俳優 : 悪役商会)に講演をお願いすることが、提案されて審議のうえ承認された。

9. 共催展示会に関する契約書取交しについて

(宮澤幸久 理事長)

平成 23 年度の日本臨床検査自動化振興会との共催展示会に関する契約書の取交しについて、振興会から送付されてきた契約書を資料とし審議され、契約は当会、自動化振興会、自動化学会も含んだ 3 者でするのが適切であること、助成金は収支報告を検討したうえで協議のうえ決定すること、経済の混乱が生じた場合は支払えないとされているが協議するものとするのが適切ではないかとなり、自動化振興会に申し入れることとなった。

10. 東日本大震災被災者への年会費免除について

(矢富裕 総務理事)

東日本大震災にあたり、被災した会員への支援として、平成 24 年度会費を申請により、免除することが提案され承認された。特に被災証明書などの提出は不要とする。

11. 日本専門医制評価 認定機構「研修施設訪問調査及び専門医制度の枠組みに関する協議」について(チーフサーベイヤー1 名、サーベイヤー10 名の推薦)(村田満 理事)

日本専門医制評価・認定機構では、平成 22 年度より基本領域の専門医研修施設についての調査が開

始され、2年目の本年度も引き続き調査を行う予定であり、それに当たり、基本領域の学会に研修施設訪問調査チームのチーフサーベイヤ、サーベイヤ（調査員）の推薦依頼があり、常任理事会で検討し、チーフサーベイヤとして前研修施設・指導者認定委員長の松野一彦先生（北海道大学病院検査・輸血部）にお願いすること、そして、各支部から1名または2名（支部ごとに指定）推薦いただくこととなったことが報告されて、松野一彦先生については承認され、各支部からは9月10日までに事務局にお知らせいただくこととなった。

12. 「一般社団法人 日本医療安全調査機構」入社について（宮澤幸久 理事長）

「診療行為に関連した死亡の調査分析モデル事業」を継承するために、平成22年度より、日本医学会、内科学会、外科学会、病理学会、法医学会の5団体により構成する「一般社団法人 日本医療安全調査機構」が設立され、この事業の発足時に共同声明を発した日本医学会の19学会の代表者に当機構の社員として参加依頼があり、審議のうえ入社することが承認された。

13. 平成23年度「世界糖尿病デー」イベントに対する後援名義使用許可依頼について

（宮澤幸久 理事長）

平成23年度11月14日の「世界糖尿病デー」イベント開催にあたり、当実行委員会から後援名義使用許可依頼があったことが報告され、審議のうえ承認された。

14. その他

理事会等日程（矢富 裕 総務理事）

次回以降の理事会日程について、確認された。

平成23年度第4回：10月22日（土）正午～、

第5回：12月17日（土）正午～

：新旧交代の理事会

閉会の挨拶（高橋伯夫 副理事長）

高橋伯夫副理事長より閉会の言葉があり本理事会は閉会された。